

Dephrasing in Kobayashi Japanese: Is it a reality?

五十嵐陽介

日本学術振興会, 国立国語研究所
yosuke.igarashi@kokken.go.jp

- ➡ 1. 導入
- 2. 固定アクセント方言の韻律
- 3. 実験
- 4. 結論

1. 導入

• 宮崎県小林方言

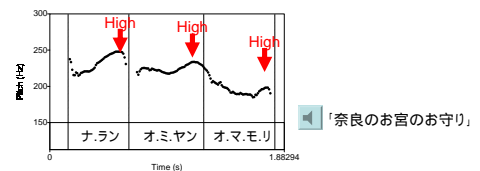
- 諸県(もろかた)方言のひとつ
 - 都城方言、日南方言、小林方言など



1. 導入

• 小林方言の特徴

- 固定アクセント ((尾高)一型アクセント) (平山1951)
 - ピッチが弁別的でない(語彙的ピッチの欠如)
 - ピッチバタンが“固定”されている:
文節の最終音節が“必ず”高い(「尾高型」)



1. 導入

• 研究の動機

- 固定アクセント(類型論的に特異な体系)である小林方言は、**文レベル**の韻律 (=イントネーション)にも特異な現象が観察される可能性がある
- 固定アクセント方言の**文レベル**の韻律研究は少ない
 - 実験的手法を用いた定量的分析は皆無
 - 山口(1998): 聴覚印象に基づく定性的分析
 - 佐藤(2005b): 基本周波数の視認に基づく定性的分析

1. 導入

• 目的

- 小林方言(若年層)の韻律構造を調査する
 - 1. 他方言で報告されている韻律-統語写像規則が小林方言にも観察されるか?
 - 2. 小林方言を固定アクセントとみなすのは妥当か?

1. 導入
 ➡ 2. 固定アクセント方言の韻律
 3. 実験
 4. 結論

2.1 韻律と統語の関係

- 他方言に報告されている韻律-統語写像規則
 - 枝分かれ構造**
 - 右枝分かれ構造の埋め込まれた統語境界にイントネーション句境界が挿入
 - Wh疑問文**
 - 疑問詞とそれに後続する文節が単一のイントネーション句に融合
 - フォーカス**
 - フォーカスのある文節とそれに後続する文節が単一のイントネーション句に融合
- これらの写像規則が固定アクセントである小林方言にも観察されるか?

2.2 固定アクセント方言=dephrasingの欠如

- 無アクセント方言と固定アクセント方言の違いは?
 - 両体系の区別には異論あり(Ramsey 1998, 山口1998)
 - 語彙的ピッチを欠いている点では共通
- ピッチパタンの固定?
 - (無アクセント=変動 vs. 固定アクセント=固定)
 - 無アクセント方言にもピッチパタンに規則性がある
 - 固定アクセント方言にもピッチパタンの変動がある
- 「ピッチパタンの固定」は両体系を区別する特徴に(本質的には)ならない

2.2 固定アクセント方言=dephrasingの欠如

- Uwano(1998)による分類
 - ピッチパタンの文節境界表示機能の有無
 - 固定アクセント: 境界表示機能あり
 - 無アクセント: 境界表示機能なし
 - フレーズング(phrasing)の違い

都城方言(固定アクセント)

仙台方言(無アクセント)

○ カッ ガ ナッタ

○ カ ギ カ ナ タ

✗ カッ ガ ナッタ

○ カ ギ カ ナ タ

「柿が生った。」
(Uwano 1998: pp.186)

2.2 固定アクセント方言=dephrasingの欠如

- Dephrasing**
 - 単一の基本的ピッチパタンが複数の文節に付与される現象

a) No dephrasing

b) Dephrasing

- 固定アクセントの新しい定義
 - 語彙的ピッチを欠き、Dephrasingを禁じる制約のある体系

	[± lexical tone]	[± dephrasing]
東京方言(有アクセント)	+	+
熊本方言(無アクセント)	-	+
小林方言(固定アクセント)	-	-

2.2 固定アクセント方言=dephrasingの欠如

- 小林方言におけるDephrasing?
 - 佐藤(2005b)の定性的分析
 - フォーカスを受けた語の後は上昇が現れない
 - 小林方言におけるdephrasingの存在を示唆
 - もしdephrasingが生じるならば、小林方言は(定義上)無アクセント方言ということになる

マユミガ マフラ-オ アンダッジャイヨ
Dephrasing?

マユミワ マフラ-オ アンダッジャイヨ
Dephrasing?

マユミワ マフラ-オ アンダッジャイヨ

2.2 固定アクセント方言=dephrasingの欠如

- Dephrasingは本当に生じているのか？
 - 上昇がF0曲線上に視認不可能 上昇削除
- Undershoot?
 - 佐藤(2005b):
フォーカス後の文節の音節数が少ない
 - Undershootの可能性:
調音的制約(少数の音節+フォーカスによるピッチレンジ縮小)
上昇の音声的弱化
 - 音節数を増せば上昇が観察できる可能性あり

1. 導入
2. 固定アクセント方言の韻律
- ➡ 3. 実験
4. 結論

3.1 手法

- 目的
 1. 小林方言にも他の方言に報告されている韻律・統語写像規則が観察されるか調査する
 2. 小林方言にdephrasingが観察されるかどうか調査する
- 手法の概略
 - 統語構造・語用論的文脈をコントロールした標準語のテスト文を用意する
 - 被験者にテスト文を「自分の方言」に訳してもらう
 - 翻訳されたテスト文を被験者に複数回読んでもらう
 - 生成された発話を録音し、F0抽出に基礎を置いた音響分析を行う

3.1 手法

- 話者
 - 3名(21歳女性1名、18歳男性2名)
 - 0歳~18歳:宮崎県小林市
 - 18歳~:東京都
- 録音
 - Marantz PMD660(48kHz, 16bit)
- 分析
 - Praat (Boersma & Weenik 2005)

3.2.1 枝分かれ

3.2.1 枝分かれ

- Dataset I 青い家文 (テスト文は前川(1990)より)

a	左枝分かれ	アオイ ヤネン イエガ ミュッガヨ
b	右枝分かれ	アオイ デカイ イエガ ミュッガヨ

- Dataset II 眠(なる文) (テスト文は前川(1990)より)

a	左枝分かれ	ジローガ ヨント ネム ナル
b	右枝分かれ	ジローワ ノント ネム ナル

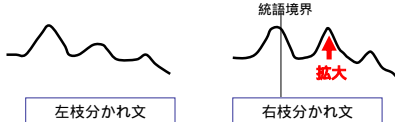
3.2.1 枝分かれ

- Dataset III おばあちゃん文 (テスト文は郡(1989)より)

a	左枝分かれ	ナガノ バーチャンカイ リンゴオ モロタイヨ
b	右枝分かれ	ナガノデ バーチャンカイ リンゴオ モロタイヨ

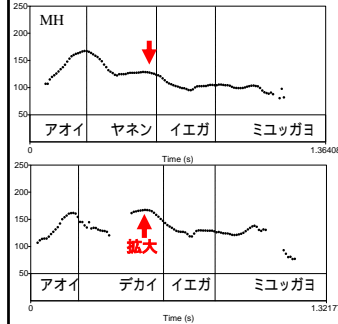
- 仮説

- 右枝分かれ構造が埋め込まれる統語境界でピッチレンジの拡大



3.2.1 枝分かれ

- Dataset I 青い家文

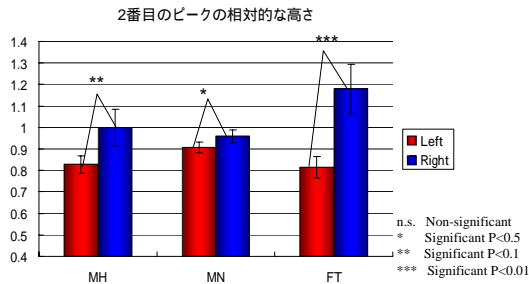


左枝分かれ:
「青い屋根の家が見える」

右枝分かれ:
「青い屋根の家が見える」

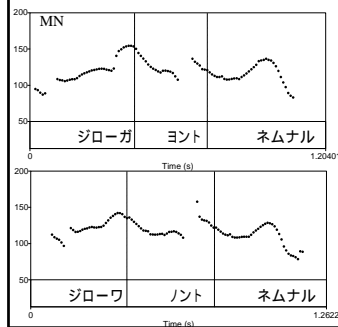
3.2.1 枝分かれ

- Dataset I 青い家文



3.2.1 枝分かれ

- Dataset II 次郎文

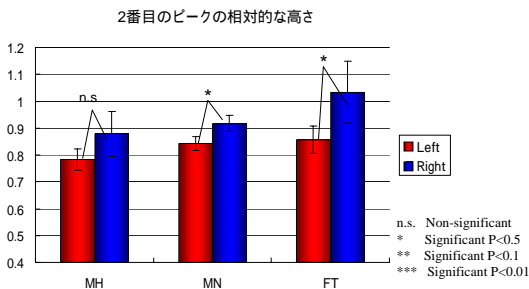


左枝分かれ:
「次郎が読むと眠くなる」

右枝分かれ:
「次郎は飲むと眠くなる」

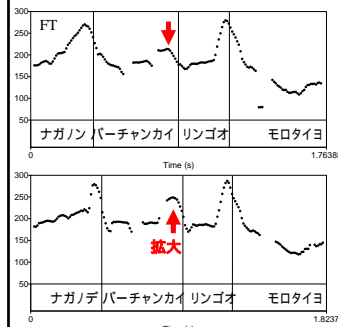
3.2.1 枝分かれ

- Dataset II 次郎文



3.2.1 枝分かれ

- Dataset III おばあちゃん文

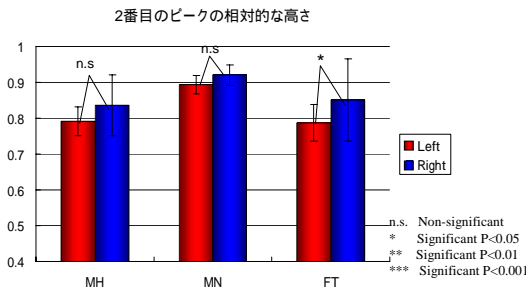


左枝分かれ:
「長野のおばあちゃんからリンゴをもらったよ」

右枝分かれ:
「長野のおばあちゃんからリンゴをもらったよ」

3.2.1 枝分かれ

- Dataset III おばあちゃん文



3.2.1 枝分かれ

- 枝分かれのまとめ

- 一貫した結果得られず
 - 右枝分かれ構造の埋め込まれる統語境界でピッチレンジ拡大が起きる傾向はある
- 他の方言に報告されてきた枝分かれ構造と韻律との写像ははっきりと確認できず

3.2.2 WH疑問文

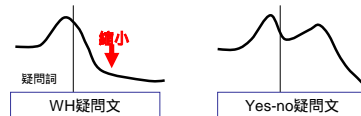
3.2.2 WH疑問文

- Dataset VI (疑問文) (テスト文は前川(1990)より)

a	WH疑問文	ナンガ ミユッケ?
b	Yes-no疑問文	ナンカ ミユッケ?

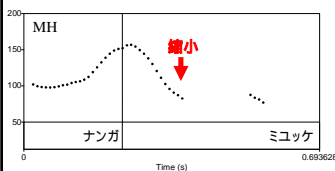
- 仮説

- WH疑問文の場合、疑問詞に後続する文節でピッチレンジの縮小が生じる

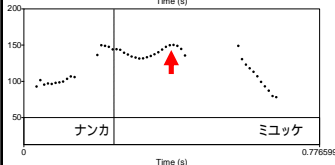


3.2.2 WH疑問文

- Dataset VI 疑問文



WH疑問文:
「何が見える?」

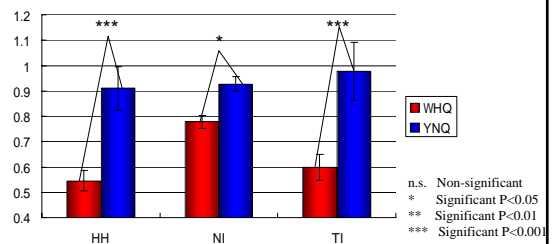


Yes-no疑問文:
「何か見える?」

3.2.2 WH疑問文

- Dataset IV 疑問文

2番目のピークの相対的な高さ



3.2.2 WH疑問文

- WH疑問文のまとめ
 - 写像あり
 - 疑問詞に後続する文節でピッチレンジの縮小
 - 東京方言と類似

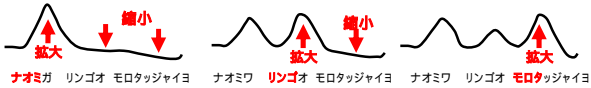
3.2.3 フォーカス

3.2.3 フォーカス

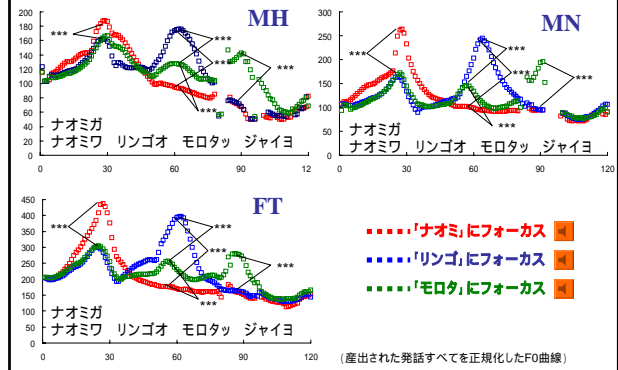
- Dataset V フォーカス (テスト文は佐藤2005aより)

a	ナオミにfocus	ナオミ ガ	リンゴオ	モロタツ	ジャイヨ
b	リンゴにfocus	ナオミ	リンゴ オ	モロタツ	ジャイヨ
c	モロタにfocus	ナオミ	リンゴオ	モロタ ツ	ジャイヨ

- 仮説
 - フォーカスを受けた文節でピッチレンジの拡大
 - フォーカスに後続する文節でピッチレンジの縮小



3.2.3 フォーカス



3.2.3 フォーカス

- フォーカスのまとめ
 - 写像あり
 - フォーカスを受けた文節でピッチレンジの拡大
 - フォーカスに後続する文節でピッチレンジの縮小
 - 東京方言(P&B1989)・大阪方言(郡1989)と類似
 - 佐藤(2006b)の結果を定量的手法を用いて再現
 - フォーカスに後続する文節で**上昇が削除されているかどうか**(dephrasingが生じているかどうか)は不明

3.2.4 Dephrasing

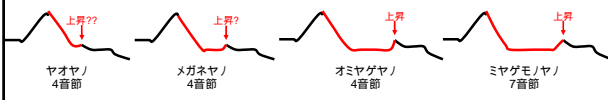
3.2.4 Dephrasing

• Dataset VI dephrasing

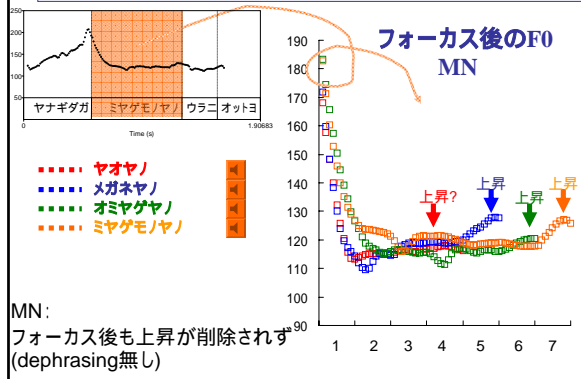
a	4音節	ミナミダガ	ヤオヤノ	ウラニ	オットヨ
b	5音節	ミナミダガ	メガネヤノ	ウラニ	オットヨ
c	6音節	ミナミダガ	オミヤゲヤノ	ウラニ	オットヨ
d	7音節	ミナミダガ	ミヤゲモノヤノ	ウラニ	オットヨ

• 仮説 (undershoot仮説)

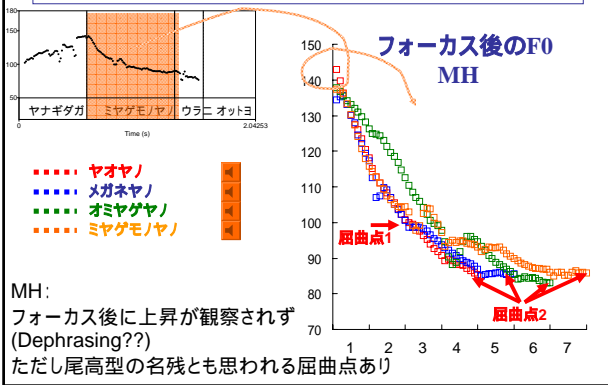
- フォーカス直後の文節の音節数が増えるにしたがって、上昇がより明瞭に観察できるようになる



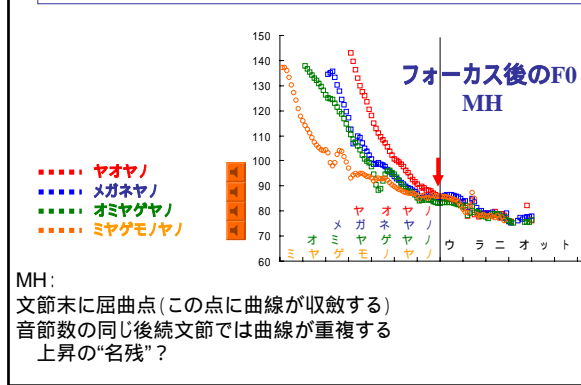
3.2.4 Dephrasing



3.2.4 Dephrasing



3.2.4 Dephrasing



3.2.4 Dephrasing

• Focus 2のまとめ

- 被験者MN
 - フォーカス後の文節にもはっきりした上昇が現れる
 - Dephrasingは生じない
- 被験者MH
 - フォーカス後の文節にはっきりした上昇が現れない
 - 尾高型の「名残」とみなしうる屈曲点が現れる
 - Dephrasingが生じる強い証拠はない
- 少なくともフォーカスと上昇の消去(dephrasing)という一対一の関係はない
- Dephrasingは生じておらず、縮小されたピッチレンジにおいて上昇がundershootされた結果と解釈可能

1. 導入
2. 固定アクセント方言の韻律
3. 実験
- ➡ 4. 結論

4. 結論

- 他方言に報告されている韻律-統語写像が小林方言(固定アクセント)に観察されるか調査
 - 枝分かれ
 - 一貫した結果は得られず 更なる調査必要
 - Wh疑問文
 - 東京方言と類似の写像規則あり
 - フォーカス
 - 東京方言・大阪方言と類似の写像規則あり
 - 佐藤(2005b)の結果を再現

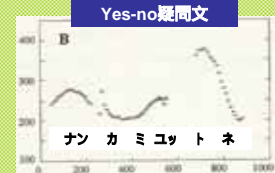
4. 結論

- 小林方言を固定アクセントとする見解の反証となりうるdephrasingが観察されるか調査
 - Dephrasingが生じるという強い証拠なし
 - Dephrasingを明らかに起こさない話者も
 - Dephrasingと思われる結果もundershootと解釈可能
 - 小林方言は(無アクセント方言とは異なる韻律特徴をもつ)固定アクセント方言であるとみなすことができる

Konec

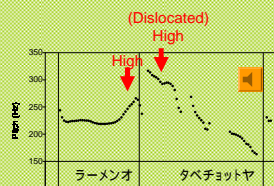
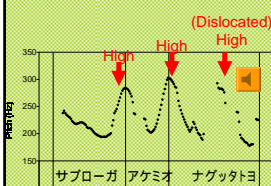
無アクセント方言におけるピッチパタンの規則性

- 無アクセント方言のピッチパターンは**ランダムではない**
 - 熊本方言(前川1990)
 - 低い開始、連続的な上昇、下降
 - 福井方言(前川1990)
 - 低い開始、末尾での急激な上昇
- ピッチパターン付与は統語構造とも相関



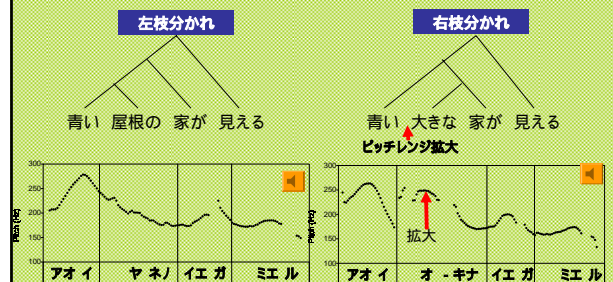
固定アクセント方言におけるピッチパタンの変動

- 固定アクセント方言のピッチパターンも**変動する**
- “High pitch dislocation”
 - 文節最終音節以前にHighが移動する現象
 - ‘切れるアクセント節’(平山1974)
 - 助動詞‘ジャ’や終助詞の前に移動(平山1974,山口1998,佐藤2005b)
 - 更なる調査が必要



枝分かれ構造と韻律

- 東京方言 (Kubozono 1989)
 - 右枝分かれ構造が埋め込まれる統語境界でピッチレンジ拡大



枝分かれ構造と韻律

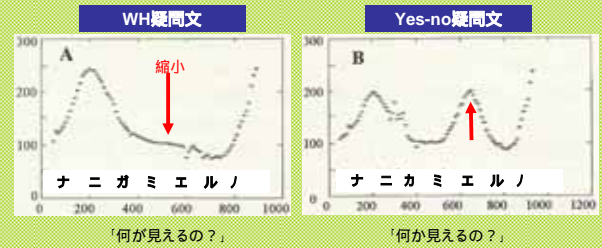
- 枝分かれ構造と韻律の写像が報告されている方言

有アクセント方言	東京方言	Kubozono (1989)
	大阪方言	郡(1989)
	弘前方言	郡(2006a)
無アクセント方言	五所川原方言	Igarashi (2006)
	熊本方言	前川(1990, 1997), 郡(2006b)
	福井方言	前川(1990, 1997)



WH疑問文と韻律

- 東京方言 (Maekawa 1999)
 - 疑問詞に後続する文節でピッチレンジの縮小



WH疑問文と韻律

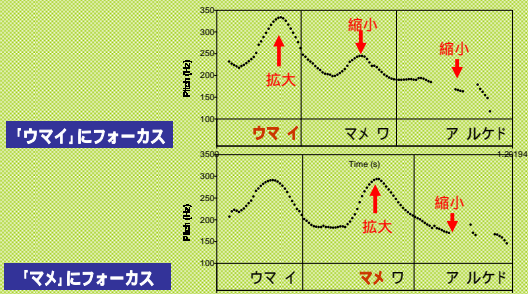
- WH疑問文と韻律の写像が報告されている方言

有アクセント方言	東京方言	前川(1990)
	福岡方言	久保(1989)
無アクセント方言	熊本方言	前川(1990, 1997), 郡(2006b)
	福井方言	前川(1990, 1997)



フォーカスと韻律

- 東京方言 (Pierrehumbert & Beckman 1989)
 - フォーカスを受けた文節でピッチレンジの拡大
 - フォーカスに後続する文節でピッチレンジの縮小



フォーカスと韻律

- フォーカスと韻律の写像が報告されている方言

有アクセント方言	東京方言	P&B (1989)
	大阪方言	郡 (1989)
	鹿児島方言	郡 (2006a)
	五所川原方言	Igarashi (2006)
無アクセント方言	熊本方言	郡(2006b)
	固定アクセント方言	小林方言 佐藤 (2005b)

